

6) 東京歯科大学所蔵稀覯本洋書「伊澤家文庫」の書誌学的研究(そのII)
分類の整備および目録の完成

A Study on the Rare Foreign Books "Izawa Family Library" housed in the Tokyo Dental College (Part 2) The Classification and Completion of the Catalogue

東京歯科大学 森山 徳長
○塩津 二郎
春日 芳彦
長谷川正康
石川 達也

Norinaga Moriyama, Jiro Shiozu, Yoshihiko Kasuga, Masayasu Hasegawa and Tatsuya Ishikawa, Tokyo Dental College

第23回本学術大会で表題の内容の大凡を報告した。その後稀覯本蔵書につき徹底的に洗い直して、新たに伊澤家書と判明したものを含む19冊を追加、214冊につき目録を完成した。前回便宜上保管庫内の硝子戸式書架所蔵本をIとし、金属ロッカー所蔵(107~290)をIIと分けて報告したが、今回はDecimal十進分類法に準じて本学図書館で使用している——1 総記, 2 臨床医学, 3 理学療法学, 4 臨床歯科学, 5・6 基礎歯科・医学, 7・8 自然科学の分類に従って分類・目録を完成した。古い時代の書物であるため、現在の学門分類と多少齟齬を来すものもあったので、内容を見て適当な項目に入れた。例えば歯科病理学は治療学を含むことが19世紀後半の教科書の傾向であった。また補綴各科は一般補綴学と鑄造(冶金)学の2項にした。

前回IIに一括した書物は大幅な追加があったので、聴視覚室南壁ガラス戸書架に花沢文庫と並んで、伊澤文庫の区分を設け表示して収納した。

以下に整備した図書番号・図書分類・冊数・そのうちの伊澤家書数を列記する。

1	101	医歯学辞典	1-1
2	106	医学全書・叢書	1-1
3	107	歯科医学全書・叢書	26-25
4	108	歯科雑書	18-13
5	109	医学雑書	2-2
6	270	外科学	1-0

7	290	精神医学・神経学	1-0
8	410	保存歯科学	20-9
9	421	口腔外科学	19-11
10	426	口腔病学	3-2
11	431	歯科麻酔学	1-1
12	440	一般歯科補綴学	13-11
13	443	歯科鑄造(冶金)学	5-4
14	450	歯科矯正学	6-4
15	460	歯科放射線学	3-0
16	490	小児歯科学	1-1
17	511	解剖学	13-2
18	512	組織学	11-0
19	514	口腔解剖学	12-5
20	515	口腔組織学	5-3
21	521	生理学	6-5
22	531	生化学・生物物理学	4-2
23	551	病理総論	4-3
24	554	口腔病理学	16-12
25	561	細菌学	3-0
26	562	口腔細菌学	1-1
27	564	口腔衛生・学校歯科	1-0
28	591	薬理学	2-1
29	593	歯科薬理学	5-2
30	601.4	法歯学	4-2
31	612	腫瘍学	2-0
32	820	化学	3-1
33	923	薬学ラテン語	1-0

総計214冊中伊澤家書は114冊であった。

目録には——Decimal図書分類番号・著者・発行年・書名・書誌学的表示(前付・本文・索引・後付の各頁数)・出版社/場所・伊澤家書であるか否かの記載——の順序で記載し、一覧表(A3版で6頁)とした。

一例を挙げれば、ガレットソンの口腔外科学大系は——421/5/11 James E. Garretson. 1890. A System of Oral Surgery 5th Ed. (XI viii. 25~1321. I (索引) -41). J. S. Lippincott/Philadelphia. 伊澤家書——というように記載した。本書については初版~5版の書誌学をかつて発表した。が、頁数を見てわかるように5版ともなると基礎臨床各科にわたり、Harrisの教科書と並んで歯科全書(107)に入れるべきとも考えられたが、慣例に従ってここでは口腔外科学書(421)として取扱った。

さて、この本庫が本学に寄贈された由来の文献的根拠を探索中であったが、本会評議員樋口輝雄氏の教示により判明した。

昭和13年6月号より、伊澤信平門下であった高橋直太郎が、古沼——齒界回顧餘録——として連載したものうち第3回8月号に執筆している、通し項目7 コレラの流行、8 靈魂の存在、9 先師の靈夢に入る、10 死刑を無罪となすのうち8、9がそれにあたる。

8は、大正15年箱根の宿で夜中伊澤家の長女の靈が枕頭に立ったという話である。

9はそれを受けた因縁話で『茲に述べんとするは正真正銘の靈夢で決して痴人の夢ではないことを断言する。(と前置して)伊澤信平師は有名な讀書家で特に齒科専門書に就いては獨、米から絶えず新刊書を取寄せて、研鑽して居られた。病辱に親しんでからは餘り購讀はされなかったが、併し著名な医書は揃えて書架を埋め金額にしても相当のものであった。逝去後は等の医籍を整理するに当たって私は先師の遺志と未亡人の希望を参酌し、他の書籍と交えて全部東京齒科医専校へ寄付することに決定した。……殊に絶版の書籍も相当あった爲花沢教授など満悦であったと仄聞した。其後間もなく大正14年の初夏或夜私は夢を見た。……』『それは信平が夢枕に立って血脇氏と会見の約束があるが、彼は未だ見えぬかと問はれた……。先生が遅刻のため出直して来ると一旦辞した血脇氏が現れ先師と固き握手を交わした。翌日私が外出中同様に血脇氏が私をたずね、留守中なので出直して来られた寄贈本に対する謝意を述べられた……。』というのである。

夢物語りに託した高橋直太郎の記述は伊澤信平の遺志を追認する一つの方便であったのかも知れない。いづれにせよ、この記事により本学に寄贈が行われたのは大正14年春～夏と特定出来て、震災から復興した仮校舍時代であったことが裏付けられた。

7) 高山紀齋家について

—池田家所蔵の古文書から—

Documents on the “Kisai Takayama Family”

—from the Ikeda Family Collection—

岡山県歯科医師会 横山 好文

Yoshifumi Yokoyama, Okayama Dental Association

奥村鶴吉著「高山紀齋先生小傳」(明治44年発行)によると、「先生は嘉永三年十二月十二日、備前国岡山に生る。父は紀次氏、母は清子、先生は其長子なり。幼名を彌太郎と云ふ。」とあり、高山紀齋先生の父親は、紀次となっている。紀齋に関する他の資料も父親は高山紀次となっている。

明治の初期、廃藩置県を前にして、全国的にすべての武士は藩別改革にしたがい部門を返上し、士族に名をかえている。岡山池田藩はその際、各藩士にたいし、最後の当主より、家系と一族の動静を申告させている。これが「先祖并御奉公之品書上」と云い、現在膨大な池田家資料として、岡山大学図書館に保存されている。まことに貴重な資料である。

幕末の池田藩陪臣に高山姓は四家ある。すなわち、高山厳夫、高山専太、高山寅三郎、高山惣吉である。高山惣吉については、元陪臣、旧主：家老に日置とあり書上六代とある。惣吉自身は惣右衛門紀清を明治二年に改名して惣吉にしている。明治二己巳年十二月晦日、御奉公之品書上、高山惣吉とあり、先祖書からはじまっている。一、初代高山惣兵衛頼置義、生国藩州赤穂之者二而御座候、元禄二巳年二月朔日、日置猪右衛門忠明江罷出云々…とある。中畧。一、十一月八日倅彌太郎義英学教授補被仰付候、同月十五日倅彌太郎義岡田攝蔵江随從遊学被、仰付同月十七日東京表江出立仕候、已上、明治三庚午年十二月廿九日 高山惣吉 印鑑、紀清 花押大村定平殿、喜多島勝策殿(原文のまま)。

これを見ても明らかなように、紀齋(彌太郎)の父は紀清であり、印鑑、花押まで確認できる。